

北広島市
多文化共生ビジョン
(案)

令和7年(2025年)●月
北広島市

目次

第1章 ビジョン策定にあたって

- 1 ビジョン策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 ビジョンの位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 3 計画の推進期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 4 国の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
- 5 北海道の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

第2章 北広島市の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

第3章 これまでの取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

第4章 今後の方向性

- 1 基本理念・基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
- 2 施策体系・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
- 3 推進施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

第5章 まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

参考資料

- 計画策定経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
- きたひろしま多文化共生施策懇話会委員名簿・・・・・・・・17
- 北広島市多文化共生ビジョン策定に向けたアンケート調査結果報告・・・・・・・・18

第1章 ビジョン策定にあたって

1 ビジョン策定の趣旨

北広島市では、令和元年12月に「北広島市における外国人の受け入れ・共生に向けた考え方」を策定し、多文化共生社会の構築に向けて各種取組を進めてきました。

国では、多文化共生を「異なる国籍や民族の人々が、互いの文化的な違いを尊重し、対等な関係を築きながら、地域社会の一員として共に生きていくこと」と定義付けしており、言語や文化等の違いに関わらず、お互いを認め合い尊重しながら地域社会を築いていくことが求められています。

本市では、外国人を受け入れる企業や外国人住民*が増加傾向にあるほか、国においても外国人労働者の人材育成・確保に向けた新たな雇用制度を創設しています。

外国人住民の増加に伴い、地域社会全体で多文化共生を実現するためには、行政だけでなく、企業も重要な役割を果たすことが求められ、企業が主体となった取り組みも実施していく必要があります。

本ビジョンは、本市を取り巻く情勢の変化に対応し、だれもが安心して暮らすことができる多文化共生社会の推進を図ることを目的に策定します。

※外国人住民・・・住民登録をして市内に住んでいる外国人

2 ビジョンの位置づけ

本ビジョンは、北広島市総合計画(第6次)に掲げた目指す都市像「希望都市」「交流都市」「成長都市」の実現を目指し、国際交流や多文化共生社会の推進に向け、目指すべき方向性を示すものであり、他の関係する個別計画との整合性を図りながら策定します。

北広島市総合計画(第6次)
基本目標5 活力みなぎる産業と交流のまち
第6節 交流・多文化共生の推進

3 計画の推進期間

本ビジョンの推進期間は、総合計画の推進期間である令和12年度までの6年間とします。

なお、期間中であっても社会情勢の変化や市内の外国人を取り巻く社会の変化等を考慮し、必要に応じて内容の見直しを行います。

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
第6次総合計画	10年間									
多文化共生ビジョン							6年間			

4 国の動向

令和5年12月末時点の在留外国人*の数は約341万人、外国人労働者については、同年10月末時点で約205万人となっており、いずれも過去最高を記録しました。

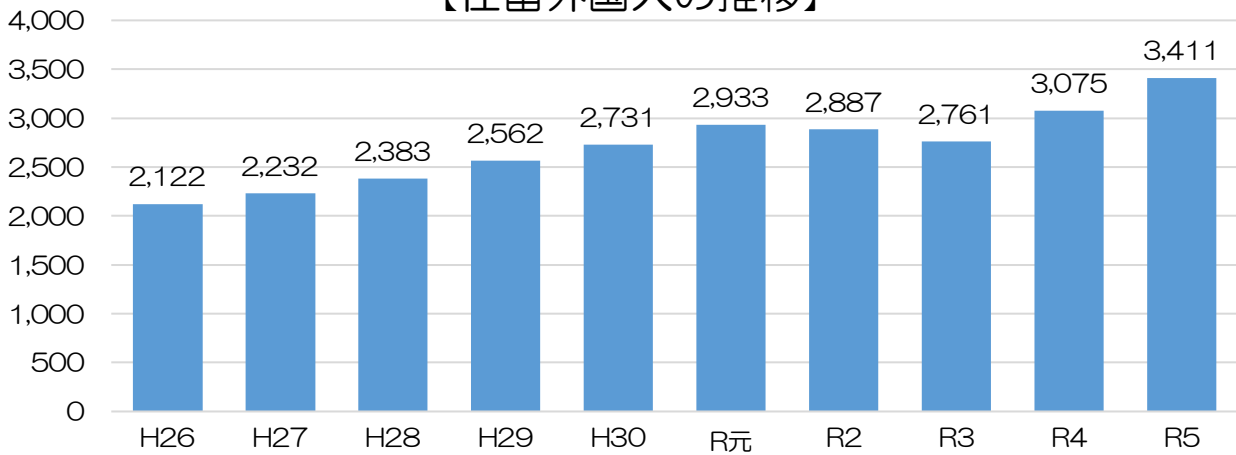
人手不足の深刻化が続く国内においては、今後も外国人労働者の増加が想定されています。

国では、技能実習制度の見直しが行われており、令和6年6月14日に「出入国管理及び難民認定法及び外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律の一部を改正する法律案」が可決・成立しました。技能実習制度に変わり新たに育成就労制度が設けられ、深刻化する人手不足に対応するため、より日本で働き続けられる仕組みへの転換が図られました。

※在留外国人・・・日本に滞在するために必要な在留資格を取得した外国籍の人

(単位：千人)

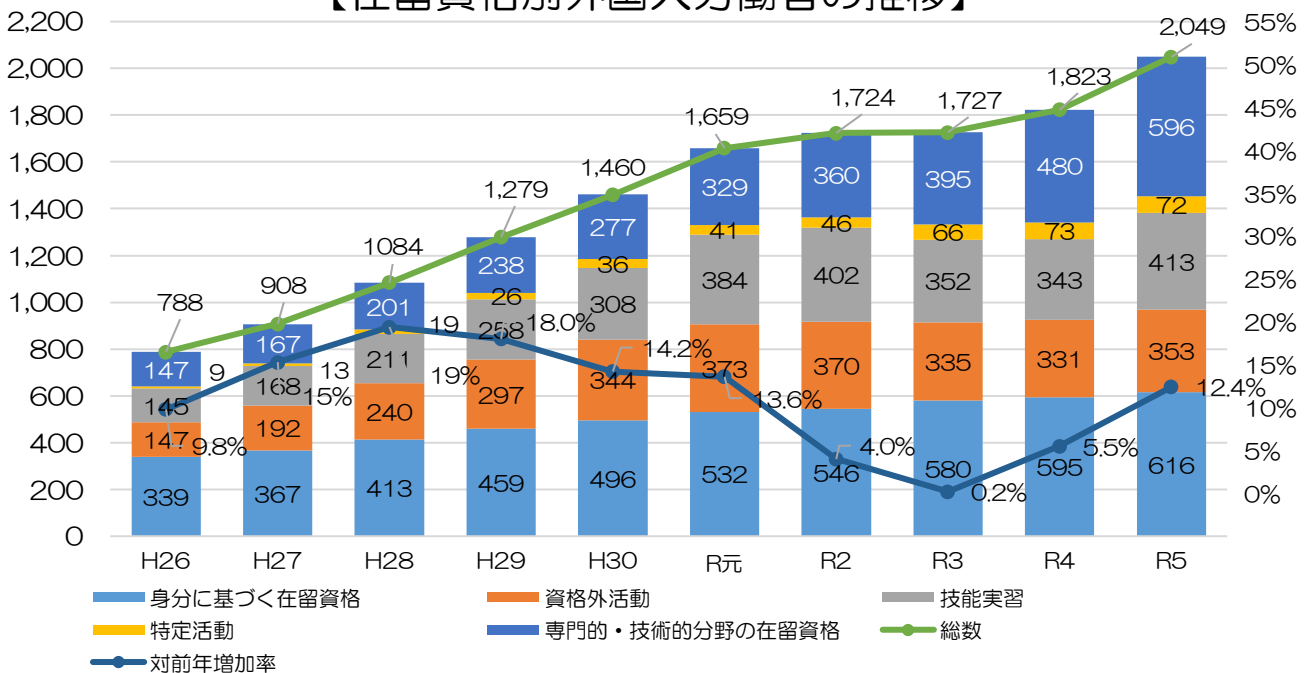
【在留外国人の推移】



出典：出入国在留管理庁「令和5年度現在における在留外国人について」(各年12月末時点)を基に作成

(単位:千人)

【在留資格別外国人労働者の推移】

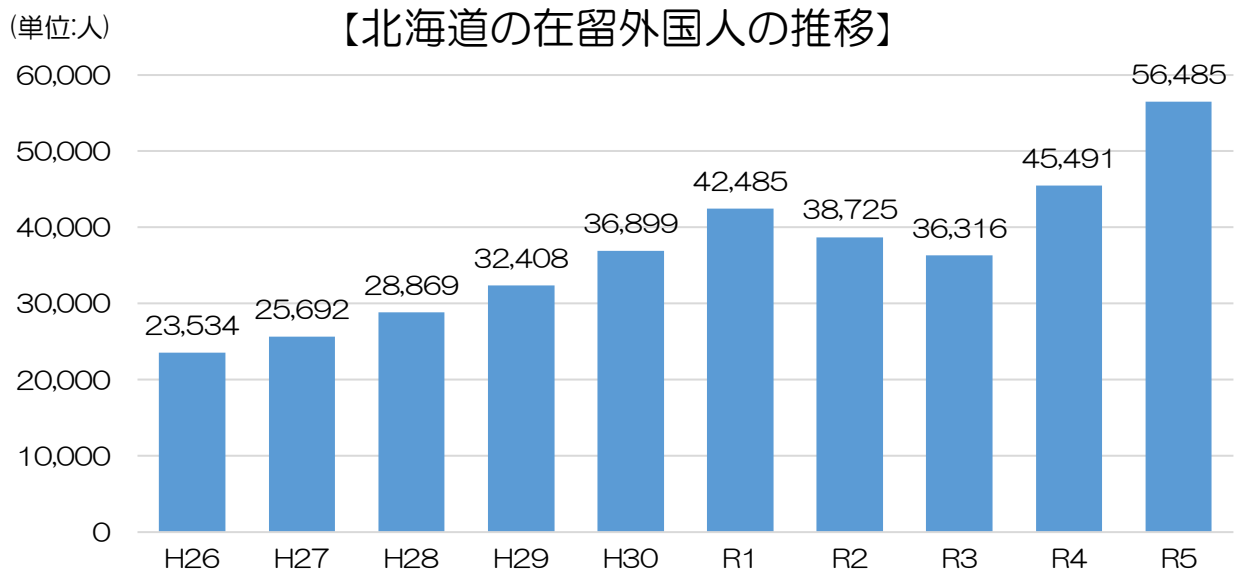


出典：厚生労働省「外国人雇用状況の届出状況まとめ(各年10月末時点)」を基に作成

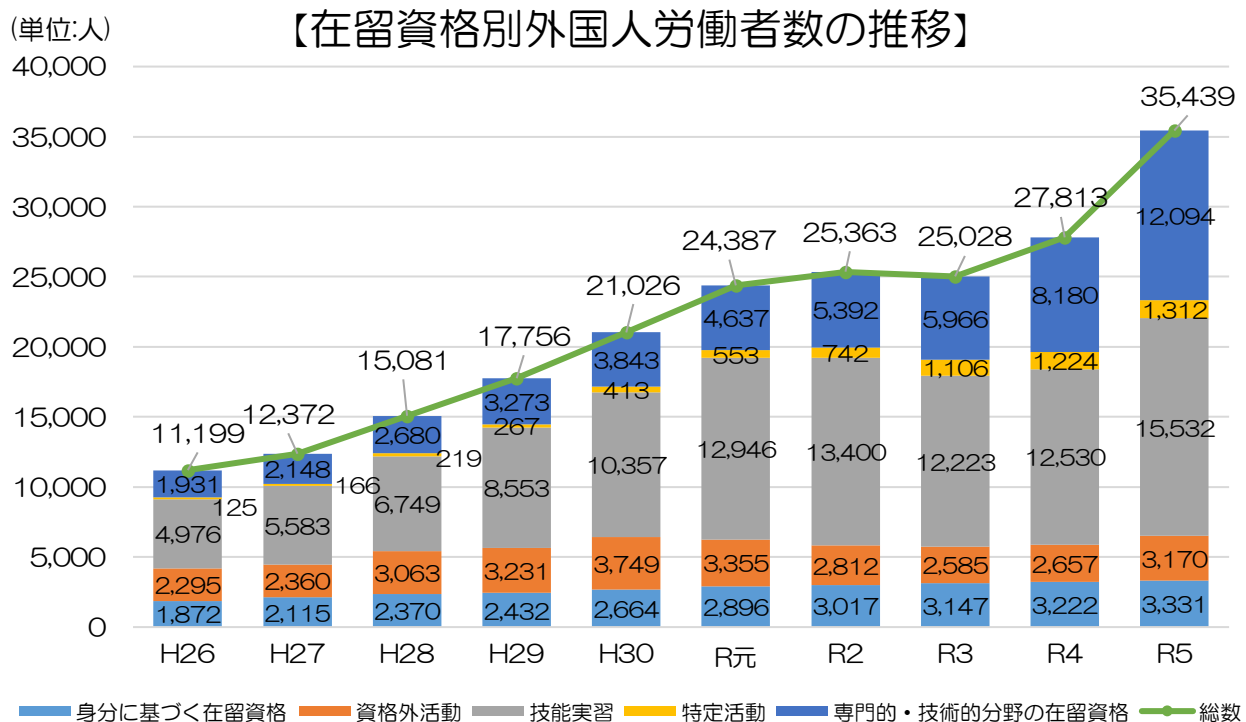
5 北海道の動向

令和5年12月末時点の北海道の在留外国人の数は、約56,000人となっており、北海道の人口に対する割合は1.2%となっています。

また、外国人労働者については、同年10月末時点で約35,000人となり過去最高を記録し、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられて以降、増加傾向にあり、今後も増加していくことが想定されています。

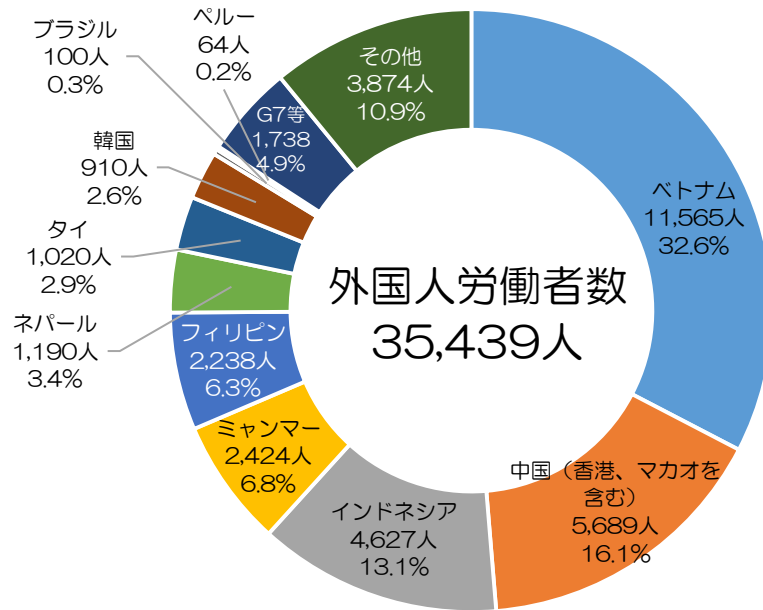


出典：出入国在留管理庁「在留外国人統計」(各年12月末時点)を基に作成



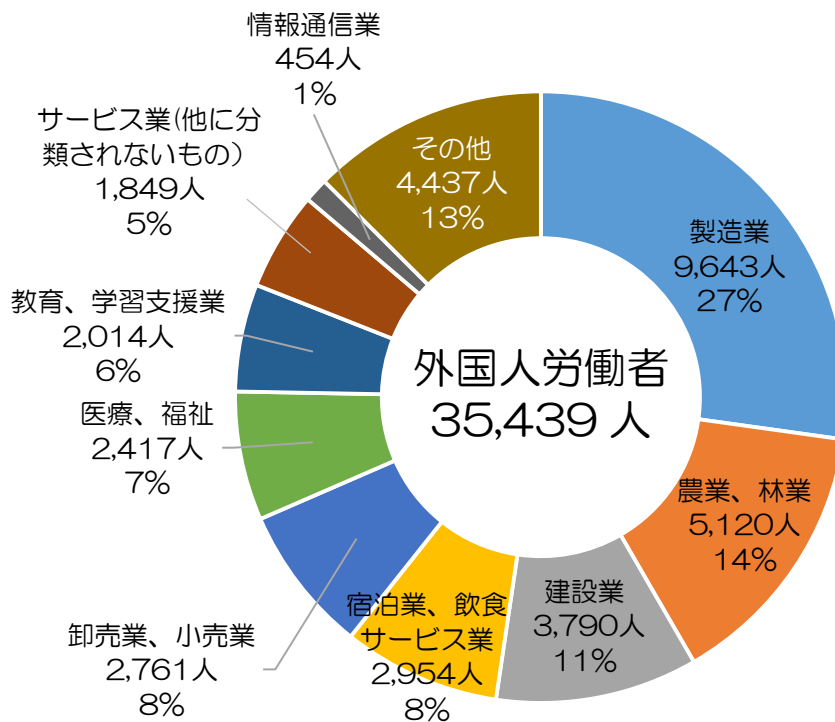
出典：北海道労働局「外国人雇用状況の届出状況(各年10月末時点)」を基に作成

【国籍別外国人労働者数】



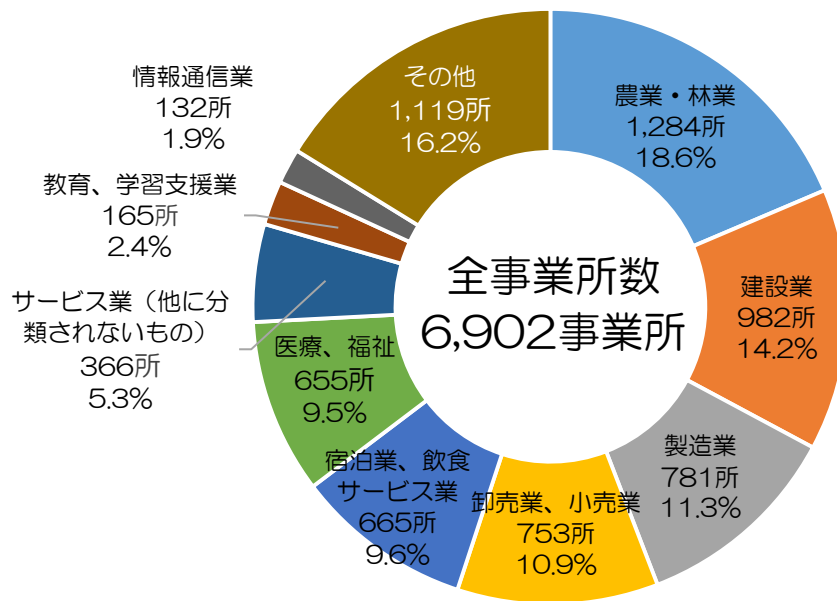
出典：北海道労働局「外国人雇用状況の届出状況(各年10月末時点)」を基に作成

【産業別外国人労働者数】



出典：北海道労働局「外国人雇用状況の届出状況(各年10月末時点)」を基に作成

【産業別外国人雇用事業所数】



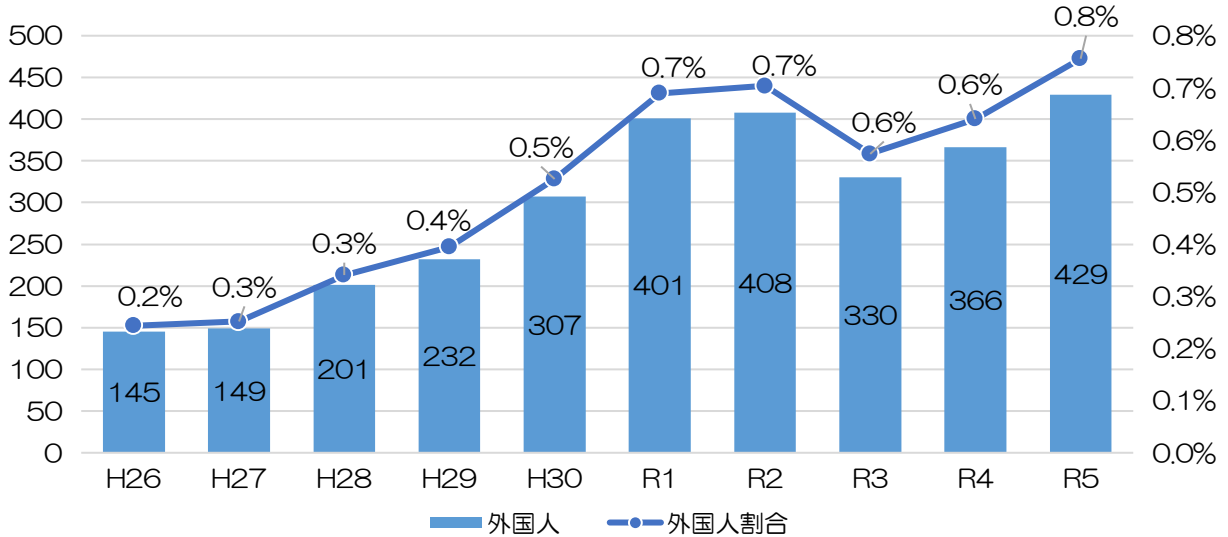
出典：北海道労働局「外国人雇用状況の届出状況(各年10月末時点)」を基に作成

第2章 北広島市の現状

本市の人口は平成19年の61,199人をピークに減少傾向にあります。在留外国人は新型コロナウイルス感染症の影響により一時的に減少に転じたものの、令和4年度からは増加傾向となり、令和6年3月末時点では429人と過去最高を記録し、総人口に占める在留外国人の割合は約0.8%となっています。

(単位:人)

【北広島市外国人の割合と推移】

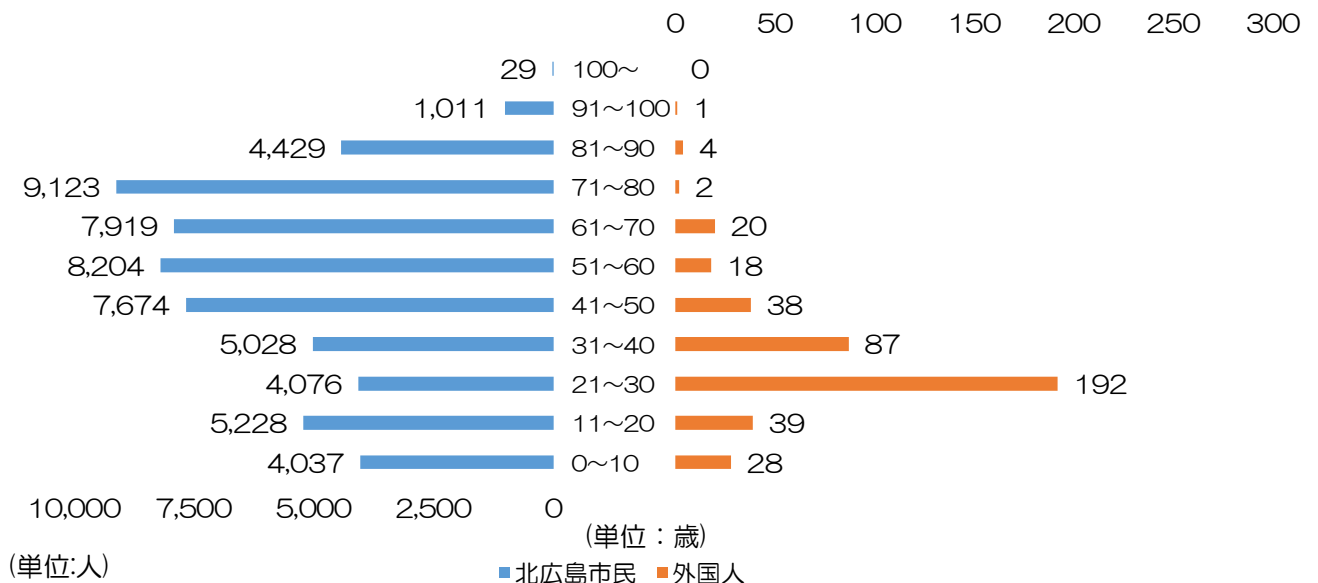


出典：北広島市住民基本台帳(各年度末)

外国人住民の年齢別構成比率は、20代が192人と44.8%を占め、次いで30代、10代となっており、生産年齢人口(15~64歳)が全体の約8割強を占めています。

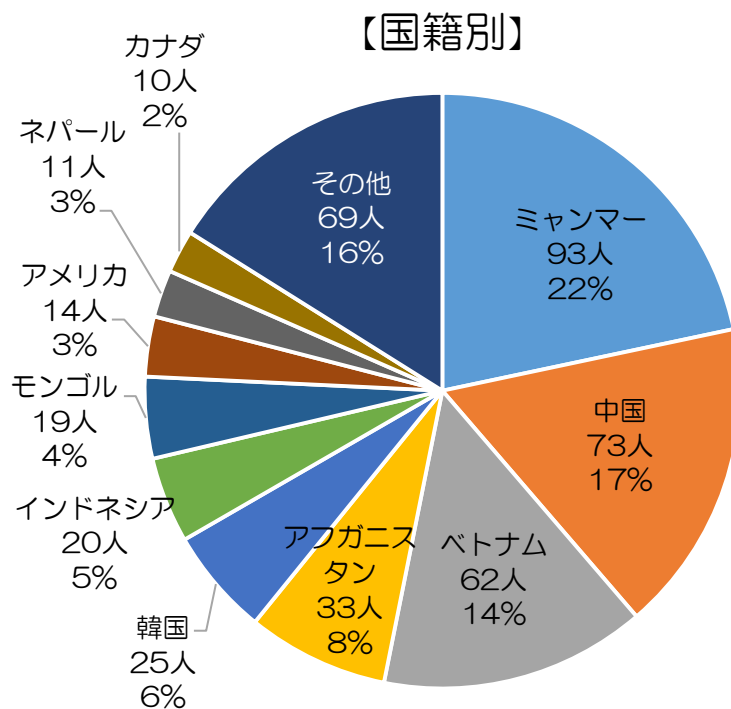
【外国人住民の年齢別構成比】

(単位:人)



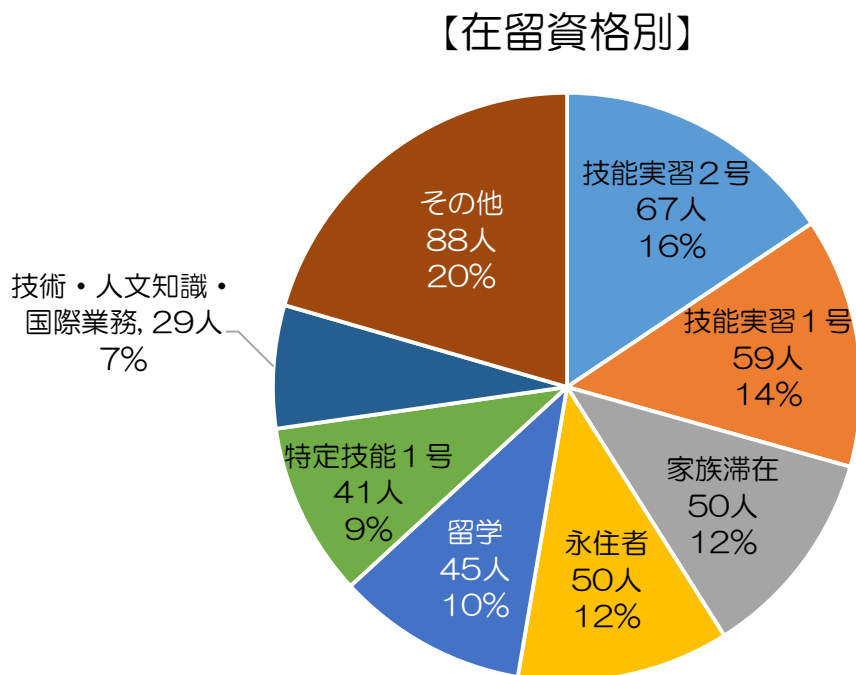
出典：北広島市住民基本台帳(令和6年3月末時点)

本市で、最も多い国籍はミャンマーで93人、続いて中国、ベトナムとなっており、約8割がアジア圏の国の方が在住しています。



出典：北広島市住民基本台帳(令和6年3月末時点)

在留資格別では、技能実習2号と1号で3割、特定技能や家族滞在、留学などがそれぞれ1割ほどと同等程度の割合となっています。



出典：北広島市住民基本台帳(令和6年3月末時点)

第3章 これまでの取組

本市では、これまで、「北広島市における外国人の受け入れ・共生に向けた考え方」の基本方針に基づき各種取組を実施してきました。

1 コミュニケーション支援

◆ 市ホームページの多言語対応

- ・ 翻訳機能を Google 翻訳に変更し 100 以上の言語に対応、ふりがな機能も実装
- ・ 観光パンフレット及びサイクリングマップの多言語版を市ホームページに掲載

◆ 案内表示の多言語対応

- ・ 市役所本庁舎に設置する窓口用番号発券機を英語併記に対応
- ・ 北広島駅西口整備に伴い案内板の多言語化を実施

◆ 日本語能力の向上、地域慣行等に対する理解促進

- ・ 日本語教室や日本の文化・習慣等を地域住民と交流しながら学ぶイベントを開催

◆ 外国人住民と市民をつなぐ取組

- ・ 通訳者や日本語教師などを支援が必要な外国人住民に紹介する多言語パートナー登録制度を創設

2 生活支援

◆ 居住環境

- ・ 「住まいの相談カウンター」を市役所に設置、北広島不動産協会と連携し住まい全般に関する相談に対応

◆ 教育環境

- ・ 日本語の理解が難しい保護者には、文書に加え口頭での説明を実施
- ・ 日本語が十分に理解できない児童生徒が在籍する学校に日本語指導ボランティアを派遣

◆ 医療・福祉

- ・ 外国語と日本語を併記した母子健康手帳(9か国語)を交付
- ・ 多言語(11か国語)による119番通報を導入(多言語通訳サービス：外国人通訳者、通訳、消防の3者通話)

◆ 防災支援

- ・ 地域防災計画及び避難所運営マニュアルに災害時における外国人への対応を明記
- ・ 外国人を対象とした防災講習会を実施

3 外国人との地域づくり

◆国際理解の促進

- ・カナダ・サスカトゥーン市と高校生の相互交流を通じた国際理解の促進・国際感覚豊かな人材を育成

◆訪日外国人旅行者への対応

- ・多言語パンフレットの作成、多言語翻訳機の導入

◆地域住民との交流

- ・多文化共生社会の実現に向けて、外国人住民と地域住民との意見交換やワークショップを開催

第4章 今後の方向性

1 基本理念・基本方針

北広島市の多文化共生社会の推進にあたり、次のとおり基本理念と基本方針を定めました。

国籍や文化等の異なる人々が、北広島市で働き、学び、楽しみ、そして国籍に関わらず誰もが安全安心に過ごし活気のあるまちとなるよう、基本方針に基づいた各種取組を実施していきます。

基

本

理

念

異なる文化や言語を持つ人々が
共生し安全安心に過ごせるまち

基本方針 1

相互理解

～互いの理解を深め、尊重し合える社会の実現～

基本方針 2

コミュニケーション支援

～文化や言葉の壁を越え、共に理解し合える地域社会の構築～

基本方針 3

生活支援

～多様な暮らしを支える環境の整備～

2 施策体系

基本方針	施策
【基本方針1】 相互理解 ～互いの理解を深め、 尊重し合える社会の実現～	1-1 言語や文化の理解の促進
	1-2 国際交流の推進
	1-3 相互理解の促進
	1-4 多文化共生の意識醸成
【基本方針2】 コミュニケーション支援 ～文化や言葉の壁を越え、共に 理解し合える地域社会の構築～	2-1 日本語を学習できる場の設置
	2-2 地域慣行や日本文化等の理解の促進
	2-3 多言語パートナー登録制度の活用促進
	2-4 多言語による情報発信
【基本方針3】 生活支援 ～多様な暮らしを支える 環境の整備～	3-1 子育て環境
	3-2 教育環境
	3-3 居住環境
	3-4 医療、保健福祉
	3-5 地域防災の強化

3 推進施策

基本方針 1

相互理解

～互いの理解を深め、尊重し合える社会の実現～

市内企業では、人材不足への対応として外国人労働者の雇用が増加しており、それに伴い、市内で生活する外国人住民も増加傾向となっています。

市民が企業や学校、地域など様々な場面で外国人住民との交流を通じて、互いの文化的違いを認め合い、互いを理解し尊重し合うことで安心して暮らすことのできる地域づくりを促進していきます。

施策	取組内容
1-1 言語や文化の理解の促進	地域の子どもたちをはじめ、市民が気軽に外国語に触れる場の検討や外国の文化や歴史を学ぶ機会を増やす取組を検討する。
1-2 国際交流の推進	国際感覚を有する人材を育成するため、友好都市との交流事業を実施する。
1-3 相互理解の促進	地域のお祭りや各種イベントにおいて、外国人住民と地域住民とが触れ合う機会を創出することで、国際交流や相互理解を図る。
1-4 多文化共生の意識醸成	地域住民や企業等を対象とした講習やワークショップ等の開催を検討し、多文化共生に関する意識醸成を図るとともに、多文化共生社会の推進に向けた情報発信(広報誌やホームページ)を行う。

基本方針2

コミュニケーション支援

～文化や言葉の壁を越え、共に理解し合える地域社会の構築～

市内に住む外国人住民が地域で円滑なコミュニケーションがとれるよう、日本文化や日本語について学習できる場の提供や日本文化等について情報発信を行い、日常生活を安心して暮らせるよう支援を行います。

また、多言語や「やさしい日本語」によるまちの情報発信を行い、行政サービスやイベント情報等を外国人住民が自分で取得できる環境づくりを目指します。

施策	取組内容
2-1 日本語を学習できる場の設置	日本語を学びたい外国人のために、日本語が学習できる場の提供を検討する。
2-2 地域慣行や日本文化等の理解の促進	地域社会の一員として暮らし続けるために必要となる生活上のルールやマナー等の周知啓発や市政に関する情報発信を行う。
2-3 多言語パートナー登録制度の活用促進	外国人住民へ制度の普及啓発や活用事例の紹介を行い、地域のパートナーと連携し、多文化共生に向けたまちづくりを推進する。
2-4 多言語による情報発信	市ホームページなどで行政情報を発信する際は、多言語での表記や、必要に応じてやさしい日本語の使用を検討し、外国人住民が理解しやすい情報発信を目指す。

※多言語パートナー登録制度・・・市が、通訳者や外国人支援に関わる活動に参加できる方を登録し、通訳者等の情報提供について依頼があった際に、登録者を紹介することで、地元人材の掘り起こしや活躍の場を提供し、地域住民と外国人との多文化共生に向けたまちづくりを推進することを目的とした制度

基本方針 3

生活支援

～多様な暮らしを支える環境の整備～

外国人住民が安全安心に本市で生活できるよう、居住、教育、医療等に関する多言語による情報発信や災害時における外国人も含めた地域防災の向上に向けて取組を実施していきます。

施策	取組内容
3-1 子育て環境	妊産婦への支援として、母子手帳の多言語化や訪問時の通訳者の同行等、安心して子育てができる環境を支援する。
3-2 教育環境	外国にルーツのある児童・生徒に対する日本語学習支援について、日本語指導ボランティア等の派遣を行い、小中学校の授業のサポートを主目的とした日本語指導を行い、日本の学校環境になじめるよう行政としてのサポート体制を整える。
3-3 居住環境	市庁舎内に設置している「住まいの相談カウンター」において住まいに関する相談を受け付けるとともに、不動産協会と連携しながら、外国人住民の居住環境についての対応を行う。また、ごみの取扱いなど地域での生活に関するルール等を外国人住民に周知する。
3-4 医療、保健福祉	日本語での意思疎通が難しい外国人住民が緊急時等に医療・福祉サービスを受けることができるよう多言語対応を行うとともに、社会保障に関する情報については、多言語での情報発信を行う。
3-5 地域防災の強化	近年増えている自然災害の対応として、多言語による防災情報の提供や外国人住民向けの防災教室の実施、避難所における多言語での対応について行政と地域とが連携した取組を検討し、外国人住民を含めた地域防災の向上を図る。

第5章 まとめ

本市については、外国人住民の人口割合が近隣市町村と比べて低い状況が続いておりますが、国による技能実習制度の見直しや日本人の更なる人手不足の影響により、今後も外国人住民が増加することが想定されます。

多文化共生の実現に向けて、行政と企業や地域団体、関係機関等が連携し、それぞれの役割を果たしながら取り組むことが必要となります。

企業は、外国人材を雇用するだけでなく、職場環境や生活面の支援を行い、地域社会との橋渡し役を担い、責任を持って支援に取り組む必要があります。

一方で、行政は、企業が各種取り組みを実施するためのサポートを行い、行政と企業が連携し外国人労働者が安心して暮らせる環境づくりを目指します。

取り組みの推進については、企業だけではなく、市民や地域団体、関係機関等と連携しながらお互いが住みよい地域となるよう共生に向けたまちづくりを進めていくとともに、本ビジョンに基づく施策の推進にあたっては、庁内各部署とも円滑な連携が図られるよう、今後の庁内の推進体制も含め横断的な組織体制を構築していきます。

【参考資料】

【計画策定経過】

◆きたひろしま多文化共生施策懇話会

本ビジョンの策定に向け、本市における多文化共生に係る施策について協議を行うため、きたひろしま多文化共生施策懇話会を設置しました。

開催日	議題
第1回 令和6年8月6日	・座長選出 ・北広島市のこれまでの取組と現状について
第2回 令和6年10月10日	・北広島市多文化共生ビジョン策定に向けたアンケート調査結果報告 ・多文化共生ビジョンの構成について
第3回 令和6年11月29日	・ビジョン案について

◆北広島市多文化共生ビジョン策定に向けたアンケート調査

北広島市内で外国人労働者を雇用している企業及び留学生を対象に、市内に在住する外国人住民の生活の実態や日本語学習の実態把握を行い、多文化共生ビジョンの施策検討の参考とするため、アンケート調査を実施しました。

- ・調査時期：令和6年8月21日～令和6年9月4日
- ・調査対象：外国人を雇用している市内12事業者及び星槎道都大学に通う留学生

きたひろしま多文化共生施策懇話会 委員名簿

氏名	選考区分及び所属	
橋本 征紀	選考区分	北広島市
	所属	北広島市経済部長
小田島 道朗	選考区分	公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター
	所属	公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター 多文化共生チーム課長兼北海道外国人相談センター長
向山 篤	選考区分	市内の事業所
	所属	社会福祉法人 北海長正会 施設長
西村 宣彦	選考区分	学識経験者
	所属	北海学園大学 教授
野崎 剛毅	選考区分	学識経験者
	所属	札幌国際大学 教授
谷口 圭子	選考区分	公募
宇野 朱紗奈	選考区分	公募

北広島市多文化共生ビジョン策定 に向けたアンケート調査結果報告



The Ambitious City

—大志をいだくまち— HOKKAIDO 北広島市

【アンケート概要】

◆期間

令和6年8月21(水)～令和6年9月4日(水)

◆調査対象

- ・外国人を雇用している市内12事業者
- ・星槎道都大学に通う留学生

◆調査方法

【市内事業者】アンケート用紙を直接配布・直接回収し実施した。

【星槎道都大学留学生】大学SNSを通じて周知し電子申請にて回答

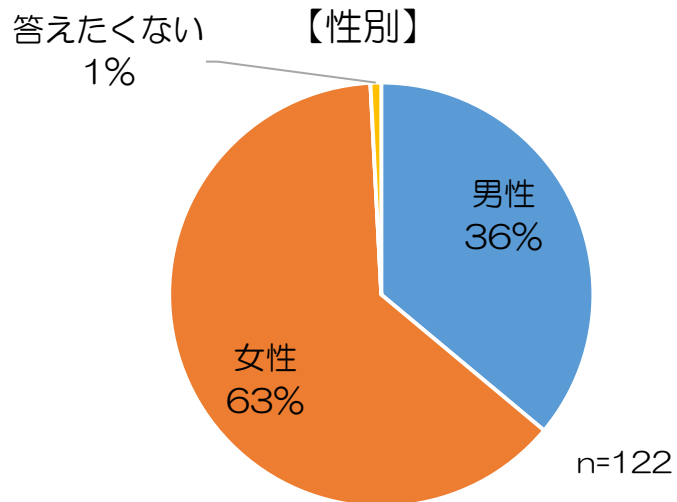
◆回収率

- ・市内企業 113件(回収率93%)
- ・星槎道都大学留学生 9件

【属性】

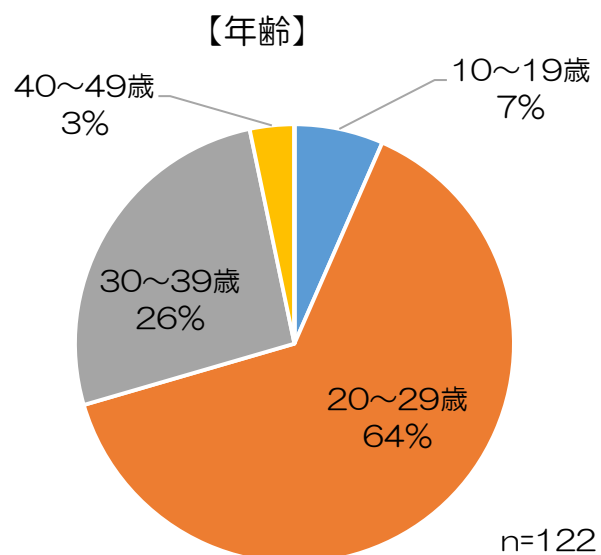
Q1 あなたの性別を教えてください。

性別については、女性が63%、男性が36%となっている。



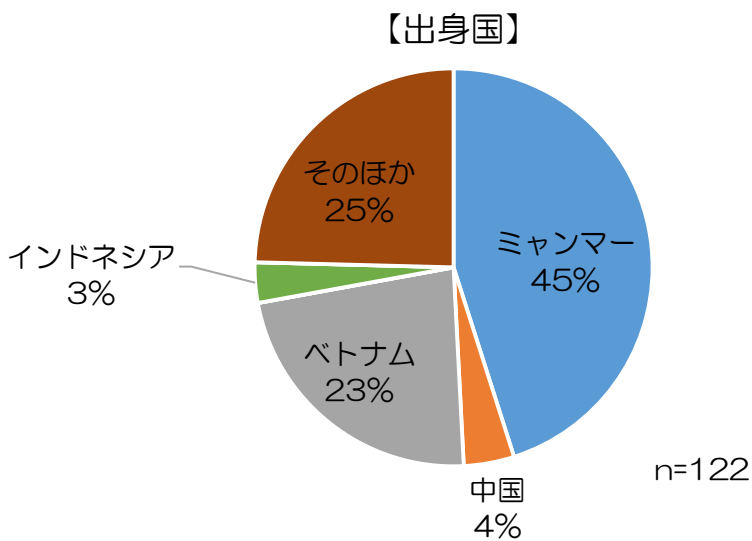
Q2 あなたは何歳ですか。

年齢については、20~29歳が64%と最も多く、次いで、30~39歳が26%、10~19歳が7%となっている。



Q3 あなたの国はどこですか。

出身国については、ミャンマーが45%と最も多く、次いで、その他が25%、ベトナムが23%となっている。

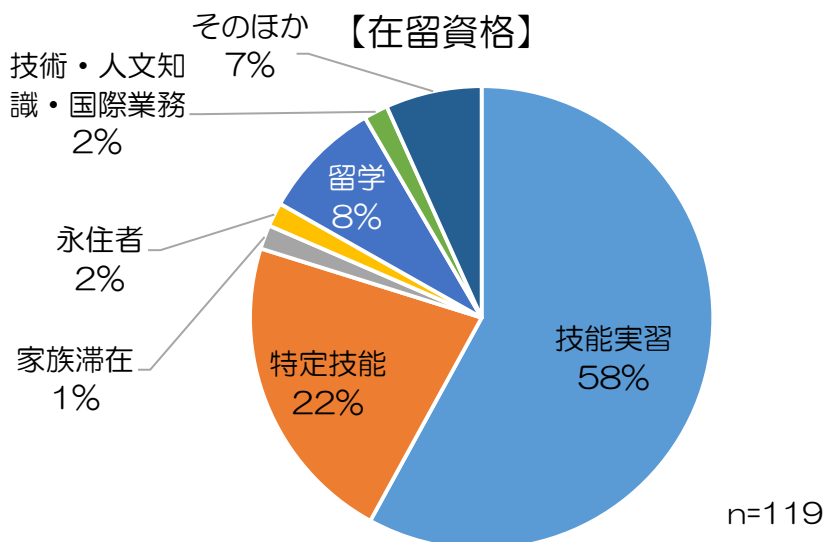


そのほか内訳

キルギス	4人
イラン	1人
ウズベキスタン	2人
タイ	6人
モンゴル	10人
台湾	6人
ケニア	1人

Q4 あなたの在留資格について教えてください。

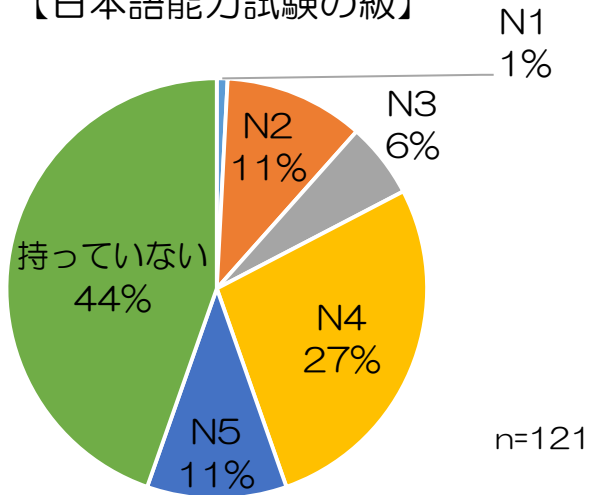
在留資格については、技能実習が58%と最も多く、次いで、特定技能が22%、留学が8%となっている。



Q5 あなたは日本語能力試験の級を持っていますか。

日本語能力試験については、持っていないが44%と最も多く、次いでN4が27%、N2及びN5が11%となっている。

【日本語能力試験の級】



【日本語能力試験】

日本国内外において、日本語を母語としない人の日本語能力を測定し認定する試験。

N1：幅広い場面で使われる日本語を理解できる

N2：日常的な場面で使われる日本語の理解に加え、より幅広い場面で使われる日本語をある程度理解できる

N3：日常的な場面で使われる日本語をある程度理解できる

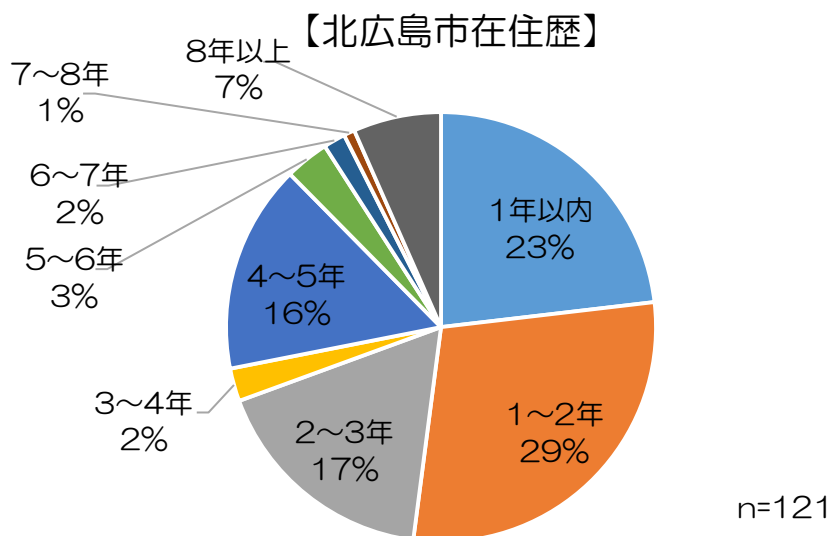
N4：基本的な日本語を理解できる

N5：基本的な日本語をある程度理解できる

【生活について】

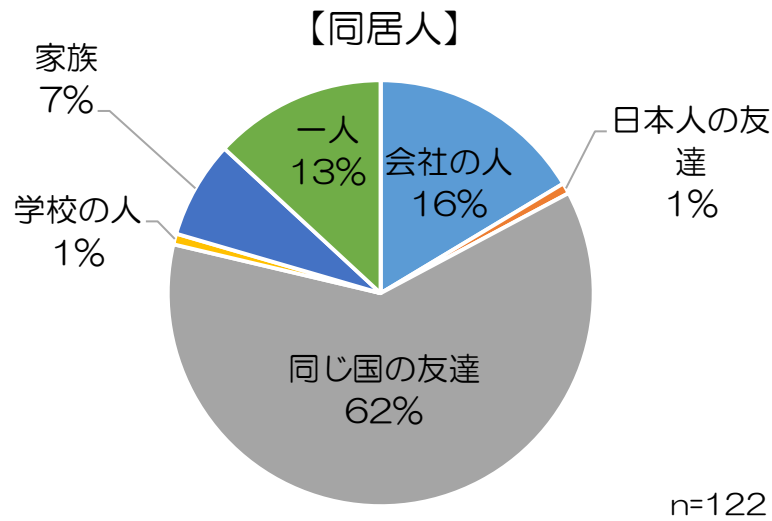
Q6 あなたは北広島市にどのくらい暮らしていますか。

北広島市の居住歴については、1～2年が29%と最も多く、次いで、1年以内が23%、2～3年が17%となっている。



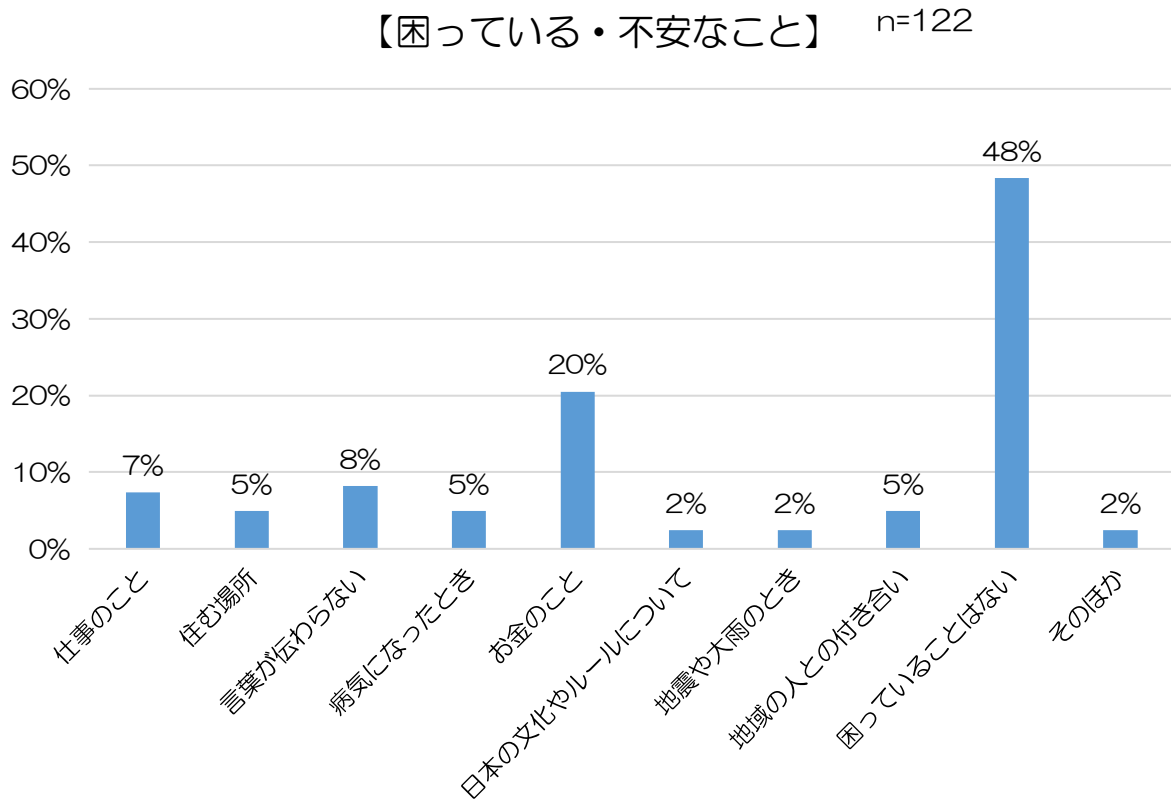
Q7 あなたは誰と住んでいますか。

同居人については、同じ国の友達が62%と最も多く、次いで、会社の人16%、一人が13%となっている。



Q8 困っていることや不安なことはなんですか。【複数回答】

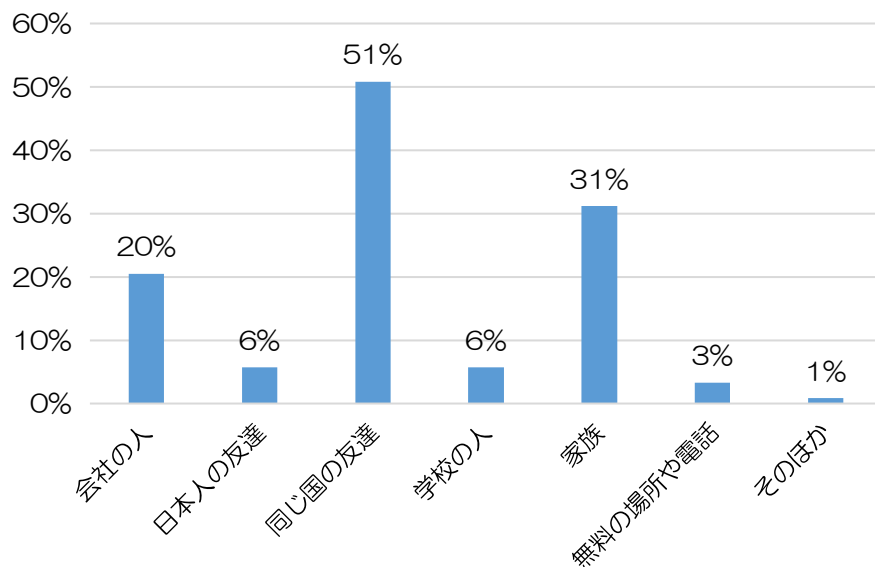
困っていることについては、困っていることないが48%と最も多く、次いで、お金のことが20%、言葉が伝わらないが8%となっている。



Q9 困っているとき誰に話しますか。【複数回答】

困っている時に話す人については、同じ国の友達が51%と最も多く、次いで、家族が31%、会社の人が20%となっている。

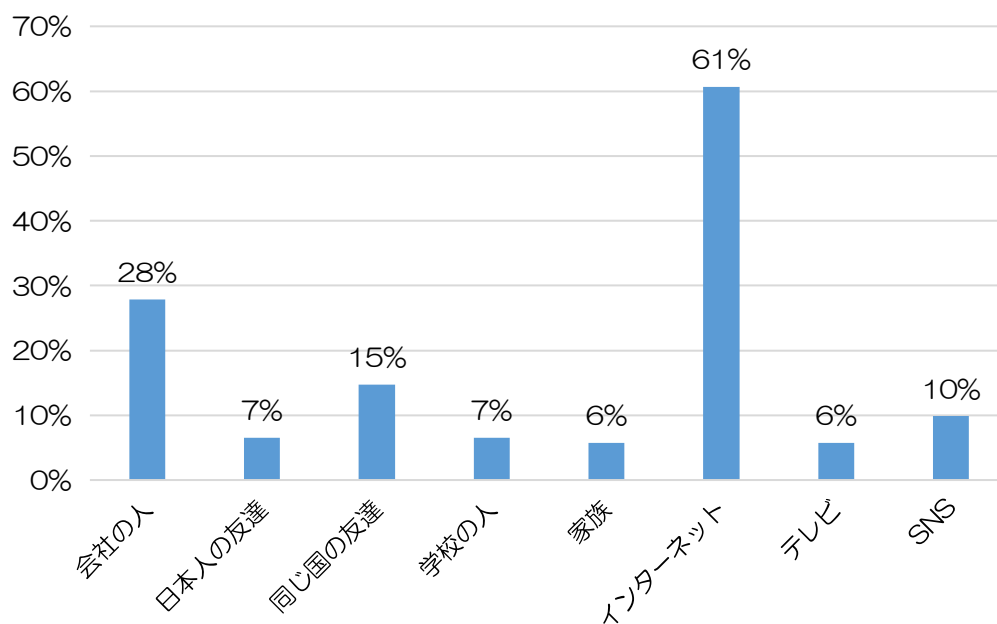
【困っているときに話す人】 n=122



Q10 あなたは誰から情報を知っていますか。【複数回答】

情報の入手手段については、インターネットが61%と最も多く、次いで、会社の人28%、同じ国の友達が15%となっている。

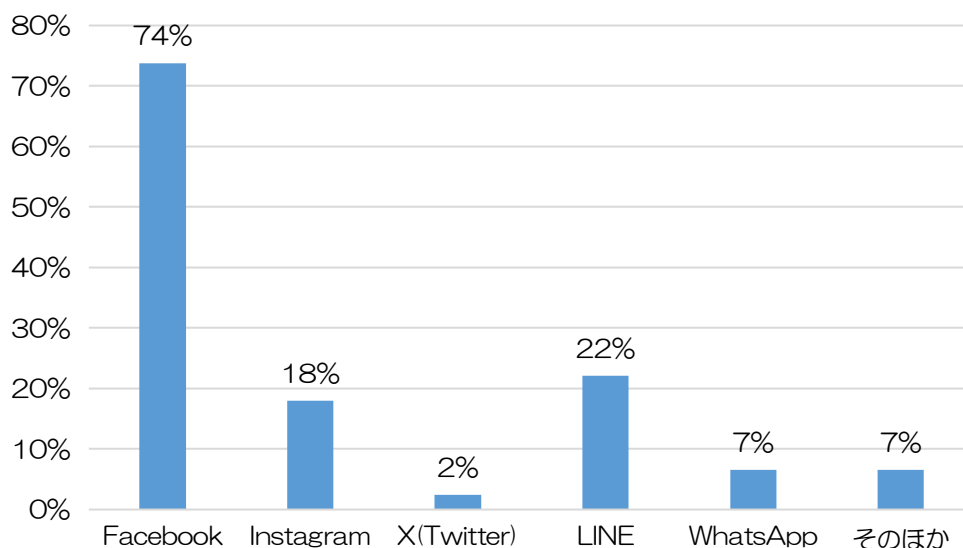
【情報入手する相手】 n=122



Q11 あなたがよく使うSNSはなんですか。【複数回答】

よく使うSNSについては、Facebookが74%と最も多く、次いで、LINEが22%、Instagramが18%となっている。

【よく使うSNS】 n=122

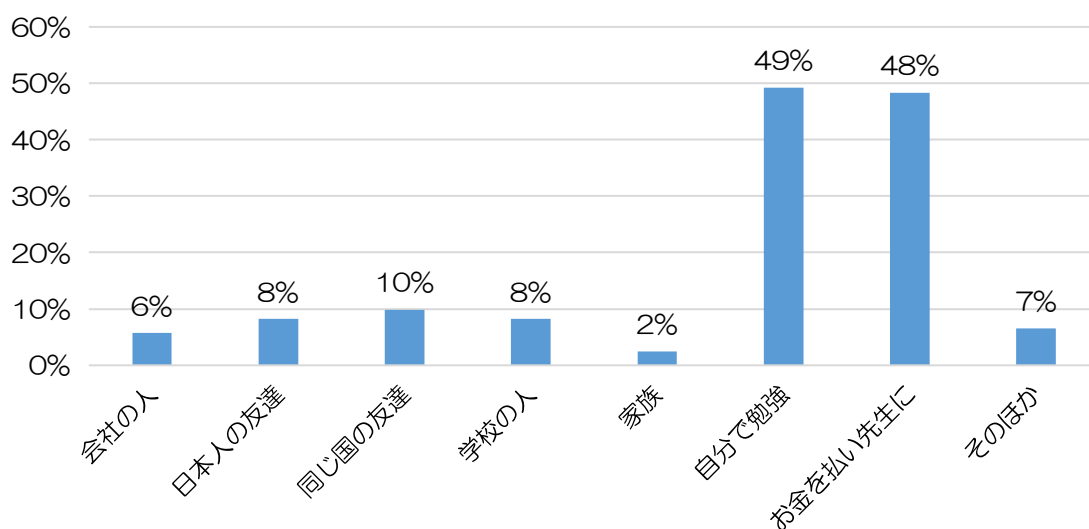


【日本語について】

Q12 あなたは日本語を誰から教えてもらっていますか。【複数回答】

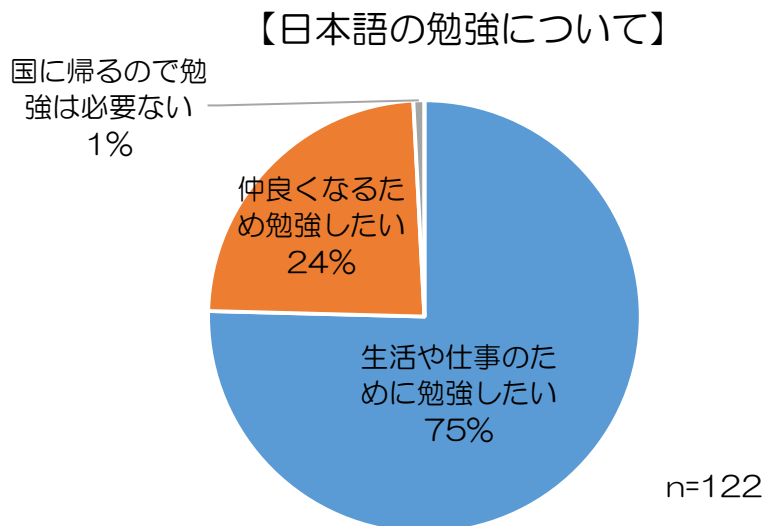
誰から日本語を教えてもらっているかについては、自分で勉強しているが49%と最も多く、次いで、お金を払って日本語の先生に教えてもらっているが48%、同じ国の友達が10%となっている。

【日本語を教えてもらう人】 n=122



Q13 あなたは日本語の勉強についてどう思いますか。

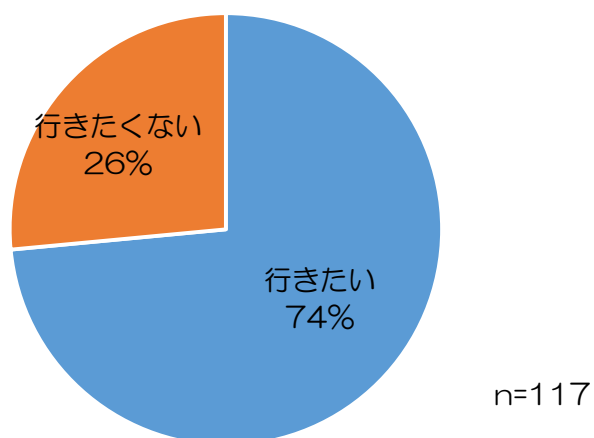
日本語の勉強については、生活や仕事のために勉強したいが75%と最も多く、次いで、地域の日本人や日本人の友達と仲良くなりたいので勉強したいが24%となっている。



Q14 北広島市に日本語を学べる場所があれば、行きたいですか。

日本語を学べる場所に行きたいかについては、行きたいが74%、行きたくないが26%となっている。

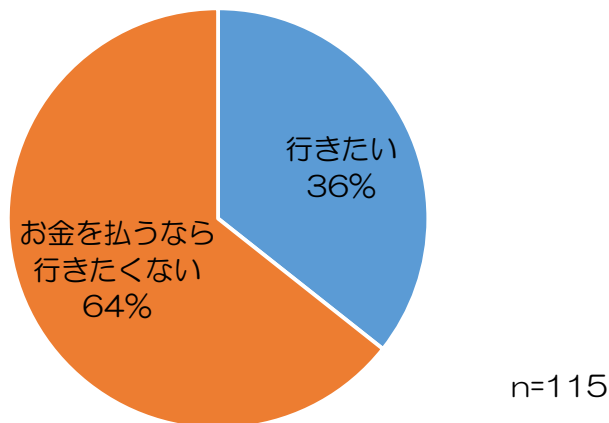
【日本語を学べる場所に行きたいか】



Q15 日本語を勉強できる教室あったら、お金を払うことになっても行きたいですか。

日本語教室の料金については、お金を払うなら行きたくないが64%、お金を払っても行きたいが36%となっている。

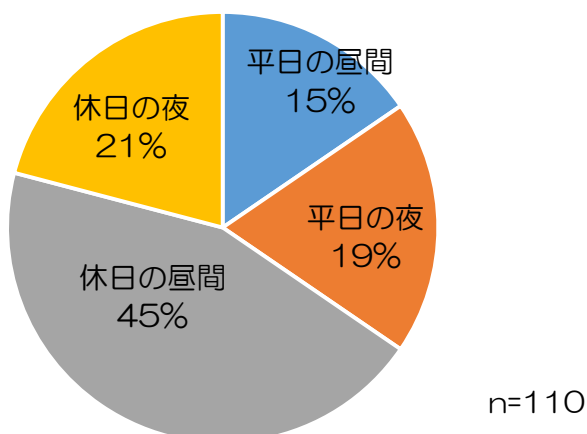
【お金を払ってでも行きたいか】



Q16 日本語を勉強できる教室があったら、いつ参加したいですか。

日本語教室の開催希望時間帯については、休日の昼間が45%と最も多く、次いで、休日の夜が21%、平日の夜が19%となっている。

【いつ参加したいか】

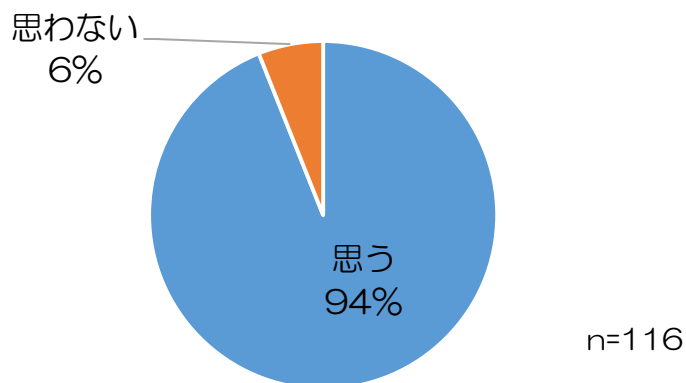


【地域との関わりについて】

Q17 あなたは地域の日本人と仲良くなりたい、日本人の友達を作りたいと思いますか。

地域の日本人と仲良くなりたいかについては、そう思うが94%、思わないが6%となっている。

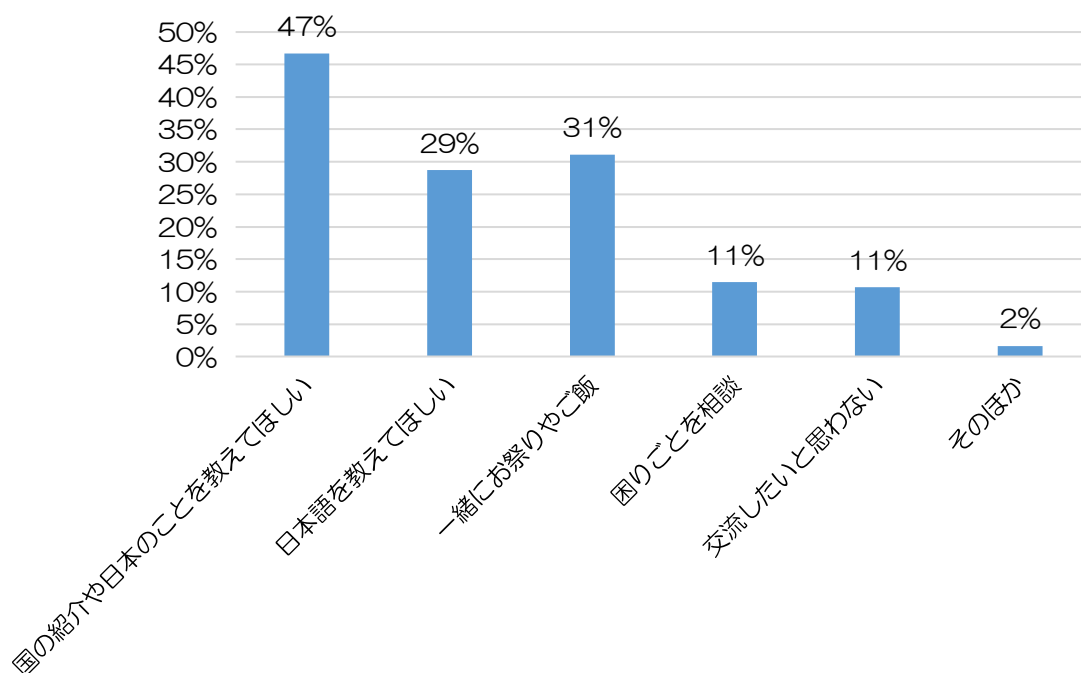
【仲良くなりたい・友達を作りたいか】



Q18 あなたは地域の日本人とどんなことがしたいですか。【複数回答】

地域の人とやりたいことについては、国の紹介や日本のことを教えて欲しいが47%と最も多く、次いで一緒にお祭りやご飯を食べたいが31%、日本語を教えてほしいが29%となっている。

【地域の日本人とどんなことがしたいか】 n=122



きたひろしましたぶんかきょうせい さくてい む
北広島市多文化共生ビジョン策定に向けたアンケート

【あなたのこと】

Q1 あなたの性別を教えてください。

- ①男性 ②女性 ③そのほか ④答えたくない

Q2 あなたは何歳ですか。

- ①10～19歳 ②20～29歳 ③30～39歳 ④40～49歳 ⑤50～59歳
⑥60～69歳 ⑦70歳以上

Q3 あなたの国はどこですか。

- ①ミャンマー ②中国 ③ベトナム ④アフガニスタン ⑤韓国
⑥インドネシア ⑦フィリピン ⑧そのほか ()

Q4 あなたの在留資格について教えてください。

- ①技能実習 ②特定技能 ③家族滞在 ④永住者 ⑤留学
⑥技術・人文知識・国際業務 ⑦そのほか ()

Q5 あなたは日本語能力試験の級を持っていますか。

- ①N1 ②N2 ③N3 ④N4 ④N5 ⑥持っていない

【生活について】

Q6 あなたは北広島市にどのくらい暮らしていますか。

- ①1年より短い ②1～2年 ③2～3年 ④3～4年 ⑤4～5年
⑥5～6年 ⑦6～7年 ⑧7～8年 ⑨8年より長い

Q7 あなたはだれと住んでいますか。

- ①会社の人 ②日本人の友達 ③同じ国の友達 ④学校の人 ⑤家族
⑥一人で住んでいる ⑦そのほか ()

Q8 困っていることや不安なことはなんですか。

- ①仕事のこと ②住む場所 ③言葉が伝わらないこと ④病気になったとき
⑤お金のこと ⑥日本の文化やルールについて ⑦地震や大雨のとき
⑧地域の人との付き合いのこと ⑨困っていることはない
⑩そのほか ()

Q9 困っているときだれに話しますか。

- ①会社の人 ②日本人の友達 ③同じ国の友達 ④学校の人 ⑤家族
⑥無料で相談を聞いてくれる場所へ行ったり、電話している
⑦そのほか ()

Q10 あなたは、だれ（どこ）から情報を知っていますか。

- ①会社の人 ②日本人の友達 ③同じ国の友達 ④学校の人 ⑤家族
⑥インターネット ⑦テレビ ⑧SNS ⑨そのほか（_____）

Q11 あなたがよく使うSNSはなんですか。

- ①Facebook ② Instagram ③X(Twitter) ④LINE ⑤WhatsApp
⑥そのほか（_____）

【日本語について】

Q12 あなたは日本語をだれから教えてもらっていますか。

- ①会社の人 ②日本人の友達 ③同じ国の友達 ④学校の人 ⑤家族
⑥自分で勉強している ⑦お金を払って日本語の先生に教えてもらっている
⑧そのほか（_____）

Q13 あなたは日本語の勉強についてどう思いますか。

- ①生活や仕事をするために勉強したい
②地域の日本人や日本人の友達と仲良くなりたいので勉強したい
③今よりも後に自分の国に帰るので、勉強は必要ない
④そのほか（_____）

Q14 北広島市に日本語を学ぶ場所があれば、行きたいですか。

- ①行きたい ②行きたくない

Q15 日本語を勉強できる教室があったら、お金を払うことになっても行きたいですか。

- ①行きたい ②お金を払うなら行きたくない

Q16 日本語を勉強できる教室があったら、いつ参加したいですか。

- ①平日の昼間 ②平日の夜 ③休日の昼間 ④休日の夜

【地域の人について】

Q17 あなたは地域の日本人と仲良くなりたい、日本人の友達を作りたいと思いますか。

- ①思う ②思わない

Q18 あなたは地域の日本人とどんなことがしたいですか。

- ①自分の国のことを紹介したり、日本のことを教えてほしい
②日本語を教えてほしい ③一緒にお祭りに行ったりご飯を食べたい
④困りごとを相談したい ⑤交流したいと思わない
⑥そのほか（_____）

アンケートはこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

北広島市多文化共生ビジョン

令和7年(2025年)●月

■発行：北広島市

〒061-1192 北広島市中央4丁目2番地1

電話：011-372-3311（代表）

■編集：北広島市経済部商工業振興課